

深地層の研究施設計画検討委員会*における 審議検討結果の総括

令和5年3月29日

深地層の研究施設計画検討委員会
(*令和5年3月7日に開催)

幌延深地層研究計画に関する令和4年度の成果と 令和5年度の計画について

令和4年度の成果については、目的に沿った研究開発が当初計画通り、着実に進められていると評価できる。具体的には、深度350mの研究坑道を中心に実施されている、必須の課題に関連する原位置試験から、多くの貴重な学術的データが得られており、特に人工バリア関連の試験においては、観測データと予測解析との比較を通じた手法の妥当性の確認が行われる等、技術的に価値のある進展が認められる。また、地殻変動による人工バリアへの影響・回復挙動試験については、必要なデータの取得及びモデルの構築が実施されているほか、海外の学術雑誌に成果が公表されており、それらに関わる手法の整備が適切に遂行されたと評価できる。

令和5年度の計画については、当初計画及び令和4年度の成果を踏まえた内容となっており、妥当と考えられる。令和5年度の計画の実施にあたっては、令和4年度までの成果の取りまとめや公表についても積極的に進めるとともに、令和4年度に協定が発効した幌延国際共同プロジェクトを最大限に活用した取り組みを期待する。

超深地層研究所計画（瑞浪）に関する令和4年度の実施内容と 令和5年度の計画について

令和4年度に実施されている地下水の環境モニタリング調査については、坑道の埋め戻しが完了してから1年目のデータが得られている状況であり、今後も継続的なデータ取得が可能となるようにモニタリング調査全体の流れ等を改めて確認するほか、水圧・水質データの変化を分かりやすく表示することが望まれる。

令和5年度の計画については、水質調査用に採取した地下水サンプルに関して、データの再確認等に備えた予備試料の保管を検討されたい。また、瑞浪で得られたデータやボーリングコア等の研究資源については、これまで様々な取り組みが進められているところであるが、学術的な価値や一般の方々への理解促進の観点から、専門家をはじめ多くの方により一層活用されるよう工夫することが望まれる。